希望する大学への進学に強みを持つ私立高校

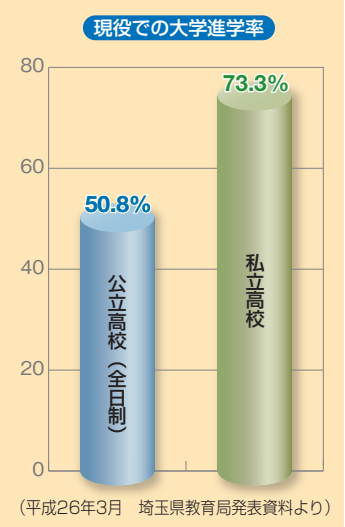
私立高校生の約75%が現役で大学に進学している

埼玉の私立高校生の大学進学者数が年々伸びています。現役での大学進学志向が高まるなか、埼玉の私立高校は現役進学率を毎年伸ばし続け、十分にその使命を果たしているといえます。

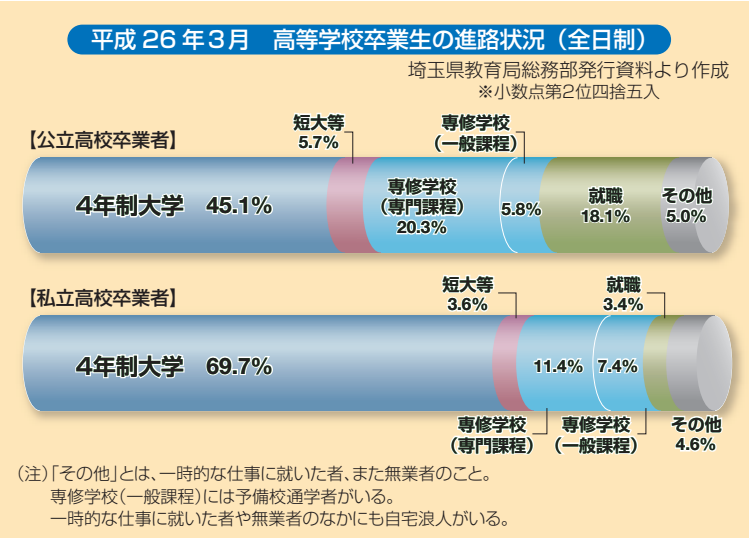
平成26年度の埼玉県教育局の統計（26年３月高校卒業生）を見てみると、埼玉の全日制高校卒業生５万3676人のなかから、３万1006人が大学に進学しています（短大などを含む）。これは全体の57.8%にあたります。

公私の違いを見てみると、公立全日制の卒業生では50.8%が大学に進学しているのに対し、私立高校からは73.3%の生徒が現役で大学に進んでいます。

公立高校には、もともと進学を希望しない生徒も多いのでこのような違いが出てきます。



私立高校生のなかには、このほかに浪人して大学進学をめざしている生徒もいますので、進学希望者はもっと多いことになります。

現在、埼玉の私立高校に通う生徒のほとんどが、大学への進学を希望しています。その要望に応えようと、学校側も授業改革やカリキュラの見直しを進めたうえ、教えのメソッドを磨き、学びの環境も整えてきました。

平成26年３月の卒業生の進路を下のグラフに表してみました。上の棒グラフが公立高校、下の棒グラフが私立高校の卒業生です。公立高校から４年制大学に進学した生徒は半分に達しませんが、私立高校の卒業生では70%を占めます。やむなく短大等に進んだ生徒もいますが、少なくとも大学進学を前提に高校進学を考えている生徒が選んでいるのが私立高校だということがわかります。